

## 地域医療支援部

### 【はじめに】

地域医療支援部は在宅医療、訪問看護、相談業務を3つの柱として運営している。入院中、退院後を含めた継続的なサービス提供を目的に、患者さまが安心して療養生活を続けられる環境を提供すべく、地域患者さまのフォローを行っている。さらにチーム医療を積極的に実践し、在宅医療の内容も訪問診療・訪問看護・訪問薬剤指導・訪問栄養指導・訪問リハビリテーション・訪問歯科診療と多岐に渡っている。この報告書では1.在宅医療・訪問看護部門 2.総合相談室の2つに分けてその活動を報告する。

### 1. 2006年度目標及び方針

地域医療支援部のビジョンとして、「患者さまの期待を常に越える医療、ケアを提供し、職員や病院の価値を創造し、最高の仕事を通じ地域医療及びその関連医療、福祉部門で日本のリーダーとなること。」とした。

なお、2006年度は2005年度同様、上記ビジョンに基づき、戦略経営管理BSC手法を用いて目標管理を行う。

### 2. 2005年度評価

#### 1)業務の再構築

総合相談室、訪問看護、在宅医療、ホームヘルプ事業を有機的に連結し、業務見直しを実施。毎週、利用者さまの問題点を検討するケアカンファを行い、各職種が連携し問題解決に努めた。さらに地域医療支援部内だけでなく、亀田グループ内の介護関係施設とも情報共有し連携を強化するために、統一システムの開発に着手した。完成は、2006年度内とした。

#### 2)記録の電子化

2005年度は電子化のための基盤整備を行い、残っていた訪問看護記録の電子化により、すべて電子化された。

#### 3)質の高い医療の提供

訪問診療に着手する医師数を増やし、癌末期や重症の患者さまがご自宅で安心して療養できるように臨時往診体制を強化した。

#### 4)ご自宅での看取りの援助

癌末期の患者さまを積極的に受け入れ、病院の緩和ケアチームと連携して訪問診療や訪問看護を行った。それにより、住み慣れたご自宅で看取りが可能となるように整備した。

### 在宅医療・訪問看護部門

#### 1. 人員

医師：専属4名 後期研修医：2名

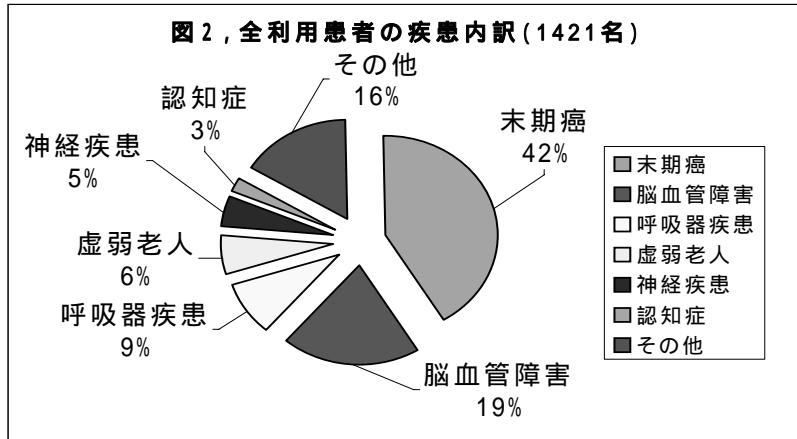
看護師：8名 保健師：1名

薬剤師：4名(兼務) 栄養士：3名(兼務)



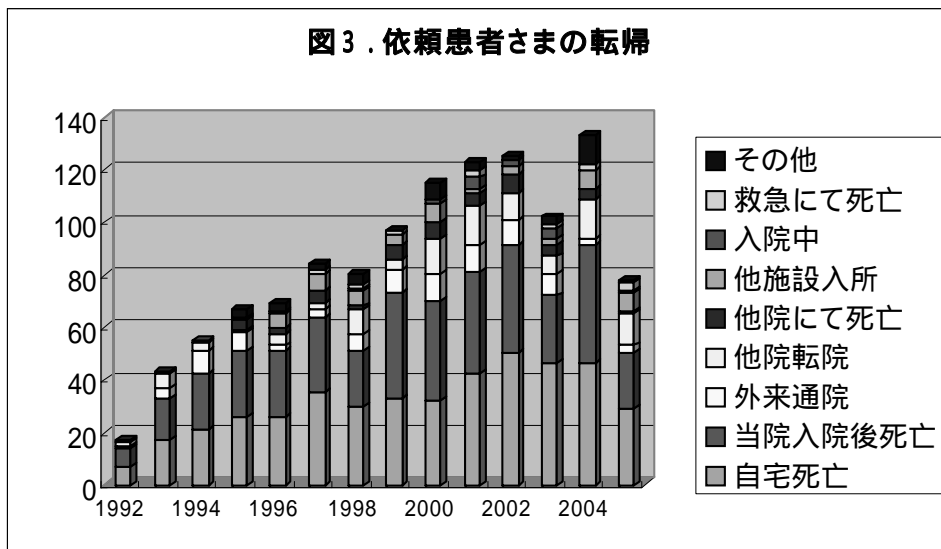
## 2)2005 年度までの依頼患者の内訳

1992 年より 2005 年まで 14 年間の依頼患者の疾患内訳を示したのが図 2 である。依頼患者のうち最も多いのが緩和ケアを必要とする癌の患者さまで、依頼全体の約 4 割を占めている。次に多いのが、脳血管障害の患者さまであるが、年々減少傾向となっている。



## 3)転帰

依頼患者さまの転帰は図 3 の通りである。1992 年度から、年度ごとの訪問終了患者さまの転機を示してある。各年度とも 8 割以上が死亡による終結で、2005 年度では在宅死 27 名、施設死 24 名で 2000 年以降、着実に自宅での看取りの件数は増加している。自宅での看取りの希望を叶える、患者さまの『最後の時を自宅で過ごしたい』と言う希望を叶えるということは我々の大きな目的の一つである。



## 5 . 教育・カンファレンス・その他

カンファレンス等は、各職種間での情報のやりとりや症例を通しての勉強の場でもある。当部署では定期的に下記のカンファレンスを開催している。

### 1)ショートカンファレンス 毎労働日

毎朝のショートカンファレンスには在宅医療担当医、訪問看護師、薬剤師、栄養士、作業療法士、

歯科医師、歯科衛生士が参加し、それぞれ実施内容を報告し、方針についての確認が行われる。

#### 2)在宅ケアカンファレンス 週1回

医師、看護師、薬剤師、栄養士、リハビリ、ヘルパー、ケアマネジャー、ソーシャルワーカーなどの職種が連携し、在宅患者さまのさまざまな問題について検討を行う。2005年8月より実施し、2006年4月末までに22回を数え、検討した延べ患者数は33名となった。

#### 3)専門科とのカンファレンス

各専門科を退院した患者さまの退院後のフォロー内容や専門科医師との連携方法、退院し在宅医療を受ける予定の患者さまの療養方針などを話しあう。在宅医療医師、専門科医師、訪問看護師、薬剤師、栄養士、作業療法士が参加する。

神経内科カンファレンス月1回

呼吸器内科カンファレンス 月1回

#### 4)緩和ケアカンファレンス 週1回

緩和ケアを必要とする癌患者さまの療養を適切に保つため、さまざまな角度からの検討を行う。

患者さまの痛みを医学的に取り去るだけでなく、スピリチュアルペインにも対応するため、チャプレンも参加している。緩和ケアチーム担当医師、チャプレン、在宅医療医師、訪問看護師、薬剤師、栄養士、作業療法士が参加する。

#### 5)研修医教育

研修医の教育についてはカリキュラムを作成し、1ヶ月間の研修期間で、高齢者の在宅管理についての基本的な知識が身につけられるようにしている。

#### 6)グループ横断的標準業務の構築

2006年度より地域医療支援部だけでなく、グループ内の福祉関連施設すべてにおいて、利用者情報の一元管理を行い高品質一貫性のあるサービス提供をめざしている。2005年度末より、各業務の問題点の洗い出しに着手した。

文責：山野裕

### 総合相談室

総合相談室は2000年の介護保険施行を機に、従来の医療相談室と介護保険に関する機能もつ部署として作られ、ソーシャルワーカー(以後、SWと略す)とケアマネジャーで構成されている。2005年2月Kタワー新築の際、玄関右手にカウンターを出し、地域医療支援部として総合相談室と在宅医療部が同じオフィスに統合された。訪問看護師、栄養士、薬剤師、訪問PT・OT、さらに(株)亀田産業のホームケアサービスのホームヘルパーとも、顔を合わせる環境になった。また、2004年6月に近隣に亀田リハビリテーション病院(回復期リハビリテーション病棟、56床)オープン以来、SWを2名出向させ、本院からのスムーズな流れを目指している。2005年度は6月、本院に精神科病棟の新規開設に伴い、精神科SW(PSW)を2名配置した。

ここでの活動内容の趣旨も含めて、業績の報告をしたい。

#### 1. 総合相談室の業務内容と2005年度の目標と実績

総合相談室は、看護師を始めとするケアマネジャー、SW、医師の多職種の混合体で、各専門職の視

点を持つことを特徴としている。そして、従来の"依頼を待つ"相談業務ではなく、入院患者さまに積極的に働きかけ、援助を必要とする患者さま全員に必要なサービスを提供できるように、各 SW が各病棟を担当し、朝の病棟での Dr・Ns ミーティングや、病棟 Ns と SW の定期カンファレンスを開催する等、積極的に病棟スタッフとコミュニケーションをとっている。SW が当院のように積極的に患者さま、病棟に働きかけるということは日本においては非常に珍しく、退院時のサービスの向上、在院日数の短縮等を目指している。

また、介護保険の居宅介護支援事業者として、当院に関わりのある患者さまを中心にケアプランの作成等を行っている。ここ数年の経過をみると、当院の特徴は入退院を繰り返す患者さまが多く、年齢層は更に高齢側へシフトしている(グラフ 1)。発症して当院を受診・入院し、SW が関わり、退院後はケアマネジャーが支援し、亡くなるまで当室で関与する方が多いと言える。

相談記録は、病院の電子カルテシステムとは別に、当室独自のデータベースにすべて記録し、当相談室以外の職員は閲覧できないようにしている。

今年は BSC の実施に伴い、初の試みとして大学生向けに SW 研修会を開き、学生からの第 3 者評価を受けた。また、安房地区の福祉関係者を対象に『安房福祉塾』を中核地域生活支援センターひだまりと共催で 3 回開催した。さらに、日本医療社会事業協会の『SW 研修会』が当院を会場に開催され、日本中から 90 名以上の SW が集まり、盛況の内に終了した。

## 2. スタッフ

室長：小野沢 滋副室長：打野弘子

副室長：鎌田喜子主任：香田道丸

医師：1 名(兼務)

ケアマネジャー：12 名(2 名増員)

うち看護師 6 名(1 名増員)、福祉用具コーディネーター 1 名、社会福祉士 2 名(1 名産休から復帰)、ホームヘルパー 3 名

ソーシャルワーカー：15 名(PSW 2 名増員、SW 2 名増員)

## 3. 業務統計

今年度総合相談室が新規に関わった患者は 1,887(前年度 1,622)ケースであった。紹介経路は医師からは 524(前年度 411)件、次は家族からが 317(前年度 213)件であり、病棟 Ns から 270(前年度 316)件よりも多くなった。場所の良さもあり、患者家族に周知されてきたと言える。初回時の主訴は「今後について」461 件、「自宅退院」178 件、「転院」76 件、「施設入所」41 件、「制度紹介」232 件、「医療費」137 件で、全体の割合は前年とあまり変化はない。

当院の特徴である、退院時に以前と状態に変化がありそうな人を SW が関わりを始める"ピックアップ"は 147 件であった。受診・入院相談は 2003 年 32 件、2004 年 78 件、今年度 124 件へと増加した。これはリハビリテーション病院開設や K タワー新設に加え、精神科病棟オープンに伴う現象と考える。

相談室に関わったケースは 3,294 件で、年々増加している(グラフ 2)。退院後の行き先を検討する(「今後」)ケースが最も多い。特に神経内科、整形外科と後遺症を残す可能性のある科は退院後の生活が変わる為、この主訴で関わるケースが多く、総合内科や循環器内科、消化器内科等はケアマネジャーが



#### 4. 介護保険関係

総合相談室では居宅介護支援事業者としてケアプランの作成を行っている。

昨年までは訪問看護センターの職員も総合相談室の非常勤職員として、訪問看護利用者のケアプラン作成にあっていたが、両立して行っていくことが難しいことが解り、今年度から殆どの利用者を総合相談室でケアプランを作成していくことになった。訪問看護から約 110 名前後の利用者が総合相談室に移行し、介護度も 3、4、5 の重介護者が増えている。当院のケアプラン数全体では、介護保険導入当初と比して、確実に増加しており、今後も増加が予想される。将来のケアプラン数は最大 600 件程になると予想している。しかし 2006 年 4 月の介護保険見直し改正においては、予防給付の新規導入や 1 人のケアマネジャーが担当出来る人数の削減等が検討されており、今後ケアマネジャーが不足することは目に見えている状況である。ケアマネジャーの確保と共に質の向上に力を入れる必要を感じている。

#### 5. カンファレンス・教育

##### 1) モーニングカンファレンス

毎朝、当相談室スタッフ全員で行われ、前日の新患登録患者、および退院患者についての報告と検討が行われる。

##### 2) 新人教育

新人教育プログラムが用意されており、さらに先輩 SW がスーパーバイザーとなり、マンツーマンで指導する体制を作っている。レクチャーが定期的開催され、基本的な医療知識、福祉サービス知識の獲得を目指している。

##### 3) 職種別勉強会・カンファレンス

毎週火曜日夕方、SW とケアマネジャーはそれぞれ、カンファレンス、ケーススタディ、勉強会を行っている。

##### 4) 学会発表

・日本医療社会事業学会

2005 年 5 月 27 日(金)～28 日(土) 神戸市

「急性期病院における退院援助開始についての考察」 篠原安紀子

「疾患群別、転帰先別に見た在院日数についての考察」 青木美代子

「急性期病院からの転帰先に影響を与える因子についての検討」 青木美樹子

##### 5) 研修会講師

・2 級ホームヘルパー養成講座 香田道丸

・1 級ホームヘルパー養成講座

打野弘子、香田道丸、青木美樹子

・介護福祉士受験対策講座

篠原安紀子、鎌田麻子

・日本医療社会事業協会『SW 研修会』

「いま、記録について」 2006.3.12

小野沢滋：講演 鎌田喜子：シンポジスト

6)研修会開催

- ・『大学生向け SW 研修会』  
2005 年 10 月 17 日(月)～18 日(火) 68 名参加(6 校)  
講師は当室長及び SW スタッフ多数
- ・『安房福祉塾』  
第 1 回 「高次脳機能障害」 2006 . 2 . 9(日)  
大坂純氏(仙台白百合短期大学)  
近藤真弓氏 (当院 ST)
- 第 2 回 「個人情報への扱い方」 2006.2.27(月)  
平山尚氏(東京福祉大学)
- 第 3 回 「SW スキルと評価」2006.3.3(金)  
福山和女氏(ルーテル学院大学)

6 . 2006 年度の目標

今年度も BSC(バランス・スコア・カード)により、「高品質・一貫性のあるサービス提供」を目指していく。ケアマネジャーであるベテラン Ns や訪問 Ns、薬剤師や栄養士等の多職種の専門性を、病棟活動および地域活動に、さらに活かせるよう、業務体制を検討し、試行錯誤するのも継続する。

文責：鎌田喜子

**安房地域難病相談・支援センター事業**

地域に生活における難病患者等の生活の質の向上を推進することを目的とし、2005 年度から始まった千葉県の委託事業で二次保健医療圏毎に設置された。

(1)電話・面接相談、(2)当事者を含めたネットワーク会議、(3)ホームページによる情報提供、(4)講演研修会の開催、(5)地域交流会等の活動支援等が活動として挙げられる。

当院では相談の他、研修会(10 回)と連絡協議会を開催した。

2005 年度難病相談・支援センター研修会

2005/7/23	14 時～16 時	ALS について	鋸南山田内科 山田茂医師	安房医師会病院
8/20	10 時～12 時	吸引実習	亀田リハビリ病院	亀田医療技術専門学校
	14 時～16 時		永井三枝師長	
9/10	10 時～12 時	緊急時対応	亀田総合病院 小野沢滋医師	亀田医療技術専門学校
	14 時～16 時	呼吸器の扱い方	同院 鈴木茂樹 ME 技師	
10/15	10 時～12 時	吸引実習	亀田リハビリ病院	亀田医療技術専門学校
	14 時～16 時		永井三枝師長	
11/19	14 時～16 時	口腔ケア	亀田クリニック 高木和葉歯科衛生士	亀田医療技術専門学校

2006/1/21	10時～12時	吸引実習	亀田リハビリ病院 永井三枝師長	亀田医療技術専門学校
2/28	10時～14時	嚥下食の作り方	亀田総合病院 麻生美保子・田渡和子栄 養士	鴨川市ふれあいセンター
3/14	18時～19時	連絡協議会	今年度の報告と来年度 事業の検討	鴨川市地域保健センター

- ・担当：総合相談室 小野沢滋、鎌田喜子、濱田綾子
- ・事務局：カスタマーリレーション部 白鳥真理

文責：鎌田喜子